

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

クロガネモチ モチノキ科

・学名 *Ilex rotunda*

・園内のところどころに植栽・野生化(?)

年末年始の街中を歩くと、クリスマスリースや正月飾りには、緑の植物と赤い実の組み合わせが目につきます。クリスマスで用いるセイヨウヒイラギは常緑樹で一年を通じて葉が緑色で、永遠の生命の象徴です。赤い実はキリストの血を示し神の愛を象徴するものだとか。一方、正月飾りではナンテンが用いられ、難を転ずるから無病息災を願う意味が込められます。その他、センリョウ・マンリョウは実がたくさんなる様子をお金が貯まることに見立てています。いずれも緑の葉と赤い実が美しく、豊かな緑が生命力の象徴として用いられます。正月飾りには松や竹も用いられ、冬の寒さの中で生命力の力強さを感じさせてくれます。

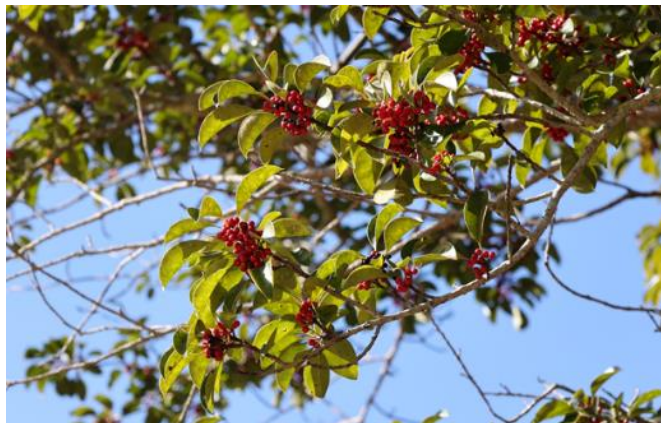
さて、冬の文化公園を見渡すと、緑の植物と赤い実の組み合わせが、目につきます。ソヨゴも緑と赤の組み合わせですが、赤い実のポツポツ付いてボリューム感



クロガネモチ。枝先に赤い果実が見られる。
公園管理事務所西側

がありません。茶室「夕照庵」前や公園管理事務所周辺にずっしりと赤い実を付けた植物、クロガネモチが寒さの中の生命力を感じさせてくれます。

クロガネモチは、モチノキ科の常緑広葉樹で西日本の山野には普通の高木です。モチノキ科の植物は日本では15種が知られており(原色日本植物図鑑[木本編])、モチノキ属(*Ilex*)に分類されています。南米のお茶であるマテ茶はモチノキ属の植物の葉を用います。常緑



クロガネモチの果実。当年枝にまとまって付く。

樹にはクロガネモチのほか、モチノキ、タラヨウ、ソヨゴ、ナナミノキ、イヌツゲなどが、落葉樹にはアオハダやウメモドキ、タマミズキなどが含まれます。イヌツゲを除いて、これらの果実は全て赤色。一部に、キミノクロガネモチやキミソヨゴのように黄色い果実の品種がありますが、基本種は赤色の果実を付けます。クロガネモチは当年枝の葉腋に花をつけるため、枝先に近い部分に果実ができるため、赤い実が目立ちやすく、緑と赤のコントラストから庭木にも好んで植えられています。ちなみにモチノキ科の植物には雌雄異株のものが多く、クロガ

ネモチも該当します。庭木で植えるにはご注意を。

秋に赤い果実が見られるのは、ガマズミの仲間(ガマズミ科)やカナメモチやフユイチゴのようなバラ科の植物などもあります。同じ赤い果実でもガマズミ科やバラ科の果実は比較的早めに消失するのに対して、モチノキ科の果実は残りやすく、年によっては春先まで残存します。試しに一粒食べてみると、渋みが口の中に広がり、とても食べられるものではありません。酸っぱいながらも頬張りたくなるガマズミの仲間とは大違いです。鳥たちのそれを知っているのか、モチノキ科の果実は食べ残される傾向にあります。クロガネモチの果実も食べ残された状態で年を越し、春に向けて赤い果実の美しさを楽しませてくれます。冬の日射しを長く浴びると干し柿のように渋が抜けるのでしょうか？それとも鳥たちの食べれる果実が少なくなってくるからでしょうか？いつの間にかモチノキ科の果実も無くなっていきます。モチノキ科の果実が目立たなくなれば、春は間近です。今年はいつ頃消失するか、楽しみです。



クロガネモチの枝葉(シュート)。葉柄が赤みを帯びることが多い。

✿ クロガネモチは [ここ](#) で見ることができます。
(クリックで Google マップにリンク。10 メートル程度の誤差が出る場合があります)

(龍谷大学先端理工学部・横田岳人)